

17 夜間の照明

方法(例)	管理組合の備え	各家庭の備え
夜間の照明を確保する	■	■
電源を確保する	■	■

(1) 夜間の照明を確保する

○夜間の作業や安全確保に備えましょう。

- ・懐中電灯、ヘッドライト、ランタン、コードリール …等

(2) 電源を確保する

○停電に備えて、電池や充電器の備蓄を行いましょう。

○生活場所に自家発電機を備蓄しましょう。予備燃料についても備蓄する必要があります。防災訓練時に使用するなど、自家発電機は定期的にメンテナンスを行いましょう。

- ・自家発電機、予備の電池 …等

D 日常の自主防災活動

いざというときに、「自助」「共助」でマンションでの生活を維持するためには、日常の活動やコミュニケーションがとても大きな影響を与えます。できるだけ日常の自主防災活動などへ参加するようにしましょう。

18 防災訓練

方法(例)	管理組合の備え	各家庭の備え
防災訓練を実施し、参加する	■	■
防災に関する啓発活動を継続的に行う	■	■

(1) 防災訓練を実施し、参加する

○防災訓練を実施し、参加する居住者を増やしていきましょう。参加を促進するために、年に一回の消防訓練と合わせて実施する方法もあります。

○防災訓練では、以下について取り組みましょう。

- ・マンションからの避難に備えて、実際に避難してみる。
- ・津波による浸水想定がある場合は、津波避難訓練も実施する。
- ・備え付けの防災設備・備蓄物資等の取り扱い説明を適切に行い、入居者自身が取り扱い方法を把握する。
- ・防災計画(防災力向上アクションプラン)の内容を確認して、日頃の備えを浸透させる。
- ・防災訓練に合わせて居住者名簿を更新する。



○AEDを設置している場合、最寄りの消防署に依頼して、普通救命講座を行うなど、入居者がAEDの使用方法や応急手当の方法等を把握できるようにしましょう。

(2) 防災に関する啓発活動を継続的に行う

○防災計画(防災力向上アクションプラン)について居住者の理解を深め、日常の備えにつながるように、防災訓練の他にマンション行事の一環で防災セミナーを実施するなど、防災に関する啓発活動を継続的に行いましょう。

19 地域連携

方法(例)	管理組合の備え	各家庭の備え
地域の行事に積極的に参加する	■	■

○マンション単独の防災活動には限界があることから、周辺地域と連携して物資や人材を補い合うなど、地域と連携した防災対策が望まれます。

○地域と連携した防災対策を進めるために、地域の祭りやイベント、訓練などの情報を積極的に入手し、参加するよう努め、地域との交流や情報交換を深めましょう。

- ・ネットワークづくり
- ・災害時の連絡体制づくり
- ・ボランティア活動に参加する

参考

周辺地域との連携を図り、マンションの防災力向上を図りましょう

○東日本大震災で被害を受けたマンションでは、周辺地域とのつながり(地域連携)が被災生活の支援につながった事例がありました。

- ・災害以前から地域連携を図っていたことから、周辺自治会や事業所からマンションに対して非常食の差し入れがありました。
- ・災害後、マンションは行政から準避難所に指定されて、救援物資の配給を受けることができるようになりました。マンション居住者でボランティアを募り、徐々に余剰してきた物資については、他の地域に提供しました。
- ・小学校の避難所にマンションのボランティアを派遣することで、地域の一員としての役割を果たすことができました。延600人が避難所でのボランティアに参加しました。
- ・小学校の避難所に派遣していたボランティアは、避難所からの物資支給の情報などを持ち帰ってもらい、情報の伝達役としても機能しました。

(「東日本大震災の被災地マンションヒアリングより」(平成24年度実施))

○その他にも、災害時に居住者同士や周辺地域との交流を図った事例があります。

東日本大震災における自主防災組織の活動事例集

検索

総務省消防庁 (http://www.fdma.go.jp/html/life/jireisyu/jireisyu_index.pdf)